



園だより

やよい
3月(弥生)号

令和8年2月27日
千代田区立お茶の水幼稚園
園長 伊藤栄司

<https://chiyoda.schoolweb.ne.jp/1380030>



大きく羽ばたく子どもたち

例年になく寒さの厳しい2月でしたが、日一日と日差しが高くなり春の訪れが待ち遠しい毎日です。今年度、最後の月を迎え、心も体も健やかに逞しく成長した子どもたちの姿が眩しく感じられます。3月の保育は、わずか14日(年長は13日)です。一日一日を大切に、次の学年につながる保育を行っていきます。

ひまわり組の思い出

修了を迎えるひまわり組さんが入園したのは、富士見地区にある仮の園舎でした。多くの子どもは毎朝、猿楽通りから出発する幼稚園バスに乗って通っていました。私も毎朝、一緒にバスに乗って登園する時間がとても楽しかったのをよく覚えています。

昨日遊んだことや兄弟姉妹の話、地下鉄や好きなキャラクターの話など、園に到着するまでの15分位の間にたくさんのお話を教えてくれました。また、自転車の後ろに乗って登園する子や長い坂道を一生懸命歩いて登園する子もいました。皆、幼稚園での楽しい活動を思い描き、ニコニコと楽しそうに通ってくれていた姿が可愛らしく印象に残っています。

ひまわり組の活躍

2年前に新園舎が完成したので、仮園舎を知っているのは今の、ひまわり組さんだけです。当時は、小さなちゅうりっぷ組さんでしたが今では、立派な年長さんです。3学期に入ってから、お誕生日会の司会やララちゃんのお世話のやり方をばら組さんに教えてあげるなど、頼れる存在になって活躍してくれています。小さなお友達に声をかけたり、様々なアイデアを出して楽しい時間を過ごしたりするなど頼もしい限りです。

いろいろたんけんたい ぼうけんに行く

特に印象に残っているのは子ども劇場で見せてくれた「いろいろたんけんたい ぼうけんに行く」の劇です。通常、劇を創るときは、絵本や物語をベースにして台詞や登場人物を加えていきます。しかし、今回の劇は違いました。担任の岩本先生は2学期の初めころから、「エルマーの冒険」や「かいぞくぼけっと」といった長編物語の読み聞かせを行っていました。すると、子どもたちの中には「冒険」のイメージが残り冒険をベースにした劇を創ろうということになったのです。

初めは、冒険ということもあり、悪者が出てきたり危険なことを乗り越えていったりする内容だったそうです。しかし、小学校の学芸会で「いろいろ たんけんたい」を表現した後、「みんなが笑顔になる内容がいい」とストーリーを大幅に変更して、困っている動物を助ける話になりました。一人一人のイメージを持ち寄り、話し合いで一つの物語を創りあげることが、大人でも難しいことです。さらに、大道具、小道具、衣装や背景など、必要なものを考え作り上げ本番を迎えています。

大きく成長したひまわり組

劇の完成度の高さに驚かれた方もいらっしゃると思いますが、保護者の皆さんにたくさん褒めていただいたことで子どもたちの満足感や充実感が高まりました。自分で考えたこと、やりたかったことを実現するためのプロセスがあり、苦労しながらも完成した皆さんの拍手をもらった喜びは大きく成長する糧となります。一つの劇を創る過程を通してたくさんのお話を学び身に付けたひまわり組さんです。

令和7年度のむすびに

皆様のおかげで優しく、たくましく成長した子どもたちを小学校に送ることができます。この一年間、保護者の皆様をはじめ地域の皆様には本園の教育活動へのご理解と惜しみないご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

